

ささえあい基金助成団体を紹介



パルシステム共済連の「ささえあい基金」は、「ささえあう暮らし」実現のためCO・OP共済《たすけあい》の掛金から生まれた剰余金を活用し、地域の市民団体やNPO法人をサポートする助成金制度です。毎号「ありがとうのバトン」で助成した団体を紹介していますが、今回は拡大版として、ひとり親やコロナ禍で経済的に困難状況にある世帯への食物アレルギー子育てサポートを行っている団体をご紹介します。

アレルギーの子を抱えて困窮している お母さんに寄り添いたい

食物アレルギーの赤ちゃんが飲める 粉ミルクの提供に 助成していただきました

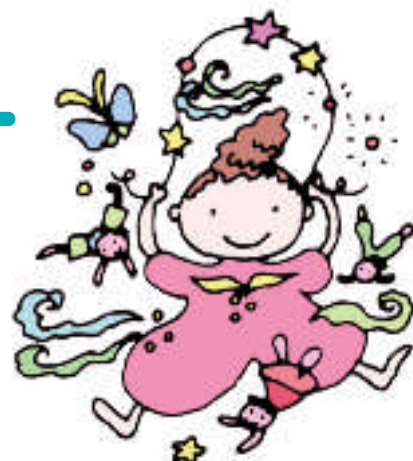


赤城智美さん

認定NPO法人 アトピッツ地球の子ネットワーク(以下、アトピッツ)事務局専務理事。自分自身も子どももアレルギーを持ち、子育てと仕事を同時にこなしてきた経験から同団体を設立。パルシステムとの関連も深く、オンライン相談をはじめとして、講演やイベントなどを何度も行っている。



ATOPICCO Network for Children of the Earth



なくなったら命に関わる アレルギー用粉ミルク

アレルギー用粉ミルクは、一般の粉ミルクに比べて1.5倍から2倍ほどの高額なもの。分類上、医薬品でないために公的補助がありません。どんなに困窮していても、アレルギーを持つ赤ちゃんにとっては、この粉ミルクがないと命に関わります。アトピッツがそんな家庭に支援を始めたきっかけは、新型コロナが日本で流行しはじめた頃の、助けを求める切実な二本の電話だったと赤城さんは言います。「ひとり親はパートナーがイベント関連の仕事に就いていたお母さん。もうひとり親は、パートナーが外国の方で日本に帰れず、実質的にひとり親になってしまった方です。電話を受けて、これは困る人がいっぱいいるなと直感しました」。



応募フォームから 深刻さを推理する

支援の応募フォームには住所・連絡先や粉ミルクの銘柄のほか、世帯人数やきょうだいの数を尋ねる欄があります。じつはこれがカギ。「ひとり親でも、祖父母といっしょに住んでいるかどうかで、困窮の度合いはだいぶちがうんですよ。でもつつこんだことを聞くと、申し込みをやめてしまう人がいるから、世帯人数やきょうだいの数から推理するんです」。生活に困っているとわかれば、ころあいを見て次の支援が必要か電話したり、粉ミルクがいない月齢になったあとの食料品支援につなげたりしています。ほかにも「福祉の窓口に行っているか、栄養指導を受けているかなどで、送った人の状況がずいぶんわかるんです」とつながりを絶やさない工夫を話してくれました。



全国の小児科や保育園にチラシを送付し、支援が必要な人につながるきっかけに。

楽しそうなロゴイラストに
込められた思いとは？

お母さんたちに『遊びましょ』って声をかけたかったんですよ。アレルギーへの対応は毎日のことだから余裕がなくて、子どもと楽しく遊んだり、成長を喜ぶのは二の次。支援で少しでも心のゆとりをもってほしくて。(赤城さん)

ささえあい基金でのべ110件の家庭に アレルギー用粉ミルクを提供

ささえあい基金の助成金は、アレルギー用粉ミルクの購入と申し込んだ方への発送費に充てられ、これまで110件に無償提供を行うことができました。また、告知チラシを制作し全国の病院・自治体など約1,500カ所に配布できました(2023年12月現在)。「アレルギー用粉ミルクを必要とする人にとって、今回採択いただいた助成金は命をつなぎとめるために必要な、大変ありがたいものでした。いまだに経済的に困難な状況にある方へ引き続きあたたかいご支援をお願いします」(赤城さん)。

アトピッ子の
アレルギー用粉ミルク
提供の詳細は
こちらからも
ご覧になれます。



アトピッ子に寄せられた声

ひとり親で子のアレルギー治療の入院があり、
パートで養っているのですがとても助かります。

送っていただいた食品は、子どもも全部食べられる
ものだとたいへん喜んでおりました。

アレルギー対応の離乳食が少ないので、
たいへん助かっています。

アルバイトの収入で生活しており本当にかつかつ
助けがあるのが本当にありがたいです。

子ども食堂で「アレルギーの方お断り」の 貼り紙を見た親子は……

アトピッ子ではアレルギー用粉ミルクのほか、もっと成長した子どもへの支援も行っています。子ども食堂へのアレルギー用食品詰め合わせの無償提供もそのひとつ。多くの子ども食堂ではアレルギー対応をしていないケースが珍しくありません。「ボランティアだしプロではないから、アレルギーに対応できないのもわかります。だけど、お腹を空かせて行き場所のない親子が『お断り』と目にしたら、どんな気持ちになるでしょう…。」支援の網からこぼれ落ちてしまう人は、数は多くないけれど確実に存在します。そのことを多くの人に知ってほしい、と赤城さん。



その他の「ささえあい基金」報告

2022年度(2023年度活動) 助成実績

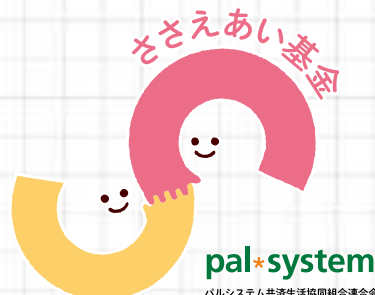
29団体に計1,490万円を助成しました。

詳しくは
ホームページへ



2023年度(2024年度活動) 助成団体決定の報告

2023年8月1日から9月29日の間に申請を受け付けました。組合員理事、有識者を交えた審査会を経て理事会で承認され、2023年12月に20団体へ計1,000万円の助成を決定しました。



紹介団体への 応援メッセージ受付中!

Webでのアンケートや
右下の感想記入用紙を
使ってお寄せください。

あなたも「ささえあう暮らし」を 応援する輪に加わりませんか? 「パルシステム給付型奨学金」

パルシステムでは困っている人への支援として、いつでもできる方法に「パルシステム給付型奨学金※」への募金があります。対象となるのは、児童養護施設などに入所している学生や、家庭内での問題、経済的な理由で進学が困難な学生たち。貸与型奨学金とはちがひ、給付型奨学金は返済不要。また卒業まで生活相談や精神面で寄り添う、伴走支援団体のサポートがあることも特徴です。学ぶ意欲がある学生を募金で応援しませんか?



写真はイメージです。©mits / PIXTA

募金のお申し込み

毎月少しずつ、長く支える 1口 100円

【毎月募金】 190454

現金またはポイントで、1回ずつ

【いつでも募金】

現金		ポイント	
1口 300円	1口 1,000円	1口 300ポイント	1口 1,000ポイント
190411	190420	190438	190446

■申し込み

注文用紙の6ケタ商品注文欄、またはインターネット注文画面に、注文番号と、「数量」記入欄に口数をご記入ください。

■「毎月募金」の停止

注文番号「190462」と、「数量」記入欄に「1」をご記入ください。(「毎月募金」を再開する場合は、改めて「190454」の記入が必要です)

パルシステム
給付型奨学金の詳細や
注文サイトからの
申し込みはこちら



※この募金は「一般財団法人パルシステム若者応援基金」が運営・管理しています。

※「毎月募金」は「パルシステム奨学金 奨学生「毎月」応援募金」、「いつでも募金」は「パルシステム奨学金 応援募金」とお届け明細に記載されます。

※本募金は寄附金控除等の税制優遇の対象ではありません。



Information



YouTube

パルシステム共済連 公式チャンネルに

「ささえあい基金」の動画が加わりました

パルシステム共済連の「ささえあい基金」をもっとよく知っていただくため、新しく動画をアップしました。取材を受けていただいたのは、慢性疾患のある子どもと社会をつなぐ取り組みを行う特定非営利活動法人SmallStepさん。詳細はぜひ動画をご覧ください。



特定非営利活動法人 Small Step
代表の赤荻 聡子さん

こちらの二次元コードからご視聴可能です。



抽選で
10
名様

団体がん保険 学費ほしょう保険

への新規ご加入でもらえる

プレゼントキャンペーン!

お好みの野菜やフルーツをセットして押すだけ! つくったボトルでそのまま飲めるから、洗い物も減らせて片付けまでスムーズ!

キャンペーン期間

2024年1月29日～3月17日まで

対象者

キャンペーン期間中に「団体がん保険」「学費ほしょう保険」のいずれかに新規でご加入いただいた方

※診断一時金100万円プランは対象外です

※当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます

保険詳細は裏面の商品ページへ!



ミニボトルブレンダー
(Vitantonio)



※写真はイメージです。

がんに関する啓発アクション パルシステムグループ全体企画のご報告

「がんのことしゃべっていいかな?」

トークイベントのLIVE配信を行いました。

フリーアナウンサー・笠井信輔さんが司会進行役を務めてくださいました。

2023年10月21日(土)に行われたパルシステムグループ全体企画。元フジテレビのアナウンサーで、血液のがん「悪性リンパ腫」に罹患した経験を持つ笠井信輔さんを司会に、2012年食道に希少がん(GIST)が見つかったことから、がん経験を社会に活かす取り組みをはじめた谷島雄一郎さんをゲストに招き、トークイベントを配信しました。

笠井さんはフリーアナウンサーになった直後に、谷島さんは長女の誕生とほぼ同時にがんが見つかりました。ともに人生これからというタイミング。がんとわかったときの思い、検査や治療方法を探しまわったエピソードなど、経験者だからできるリアルなトークが飛び交いました。



笠井さんは自身の経験談を交えながら、谷島さんの取り組みを引き出していきました。

ユニークな谷島さんの取り組み

谷島さんが手がけた取り組みとして、がん患者に寄り添ったオリジナルLINEスタンプや、医療機器をミニチュアにしたガチャガチャの制作・販売などを紹介。また笠井さん・谷島さんがともに課題としている「アンコンシャスバイアス(無意識の偏見)」とその実例や取り組みについて話されました。

配信については、10月31日時点で1,023回の再生回数となりました。2024年10月までご視聴可能ですので、ぜひご覧ください。



谷島さんは様々なアイデアと、それを実現する行動力を感じさせるトークを披露。



左:笠井信輔さん 右:谷島雄一郎さん